

## 子宮脱センター開設 3年を迎えて

65歳以上の人口が全人口の23%を超え、超高齢化社会を迎えたわが国では、婦人科領域でも中高年女性を悩ませる子宮脱をはじめとする骨盤臓器脱（Pelvic Organs Prolapse: POP）で悩む患者さんが年々増え続けると考えられます。

POPは女性の11%が罹患するとも言われ、本邦では40歳以上人口から計算すると380万人以上の患者さんが潜在しているものと推測されます。

市立札幌病院では平成22年1月に子宮脱センターを開設して3年が過ぎました。その間の手術治療などの変遷についてご紹介したいと思います。

### 1) 骨盤臓器脱 (POP) とは

骨盤内臓器のヘルニアで、子宮や膣壁が膣外へ脱出してくる状態の総称です。出てくる臓器の種類によって子宮脱・膀胱脱（瘤）・直腸脱（瘤）・小腸瘤などと呼ばれます。本疾患が進行すると接触による出血、排尿障害や尿失禁が生じQOLを低下させるだけでなく、ひいては腎臓機能障害や排便障害の原因にもなりうる疾患です。

原因は骨盤臓器を恥骨と尾骨でハンモックのように支える靭帯や骨盤底筋群が緩んだり、一部が傷ついたりして重みに耐えられず膣壁が臓器に押されて膣外へ出てしまうことによります。

### 2) 治療

保存療法と手術療法があります。

保存療法ではペッサリーリングを膣腔内に装着して脱出を防ぎます。近頃リングが適さない患者さんにはベルト状に脱出部分を圧迫するフェミクッション®の使用も行われます。

手術療法はPOPの種類・程度・生活習慣・全身状態などによって方法が決められますが、その種類は大きく分けて①子宮全摘および膣壁形成術～膣式に子宮を摘出し弛緩した膣壁を切除形成する手術。古くから行われた術式で安全性は高いものの比較的再発が多いといわれます。



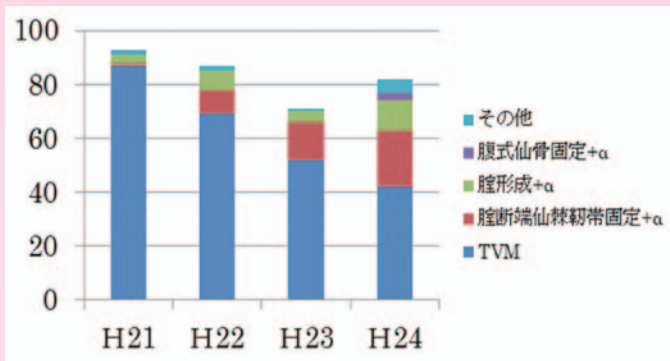
羽田健一医師 後藤公美子医師  
晴山仁志理事・部長

- ②膣閉鎖術～脱出した膣の前壁と後壁を縫い合わせて膣口を閉鎖する手術。侵襲は少ないですが、術後に非生理的な形態を呈します。
- ③子宮全摘および膣断端仙棘靭帯固定術～子宮摘出の後、膣壁の上端を骨盤内の仙棘靭帯に固定する手術。
- ④TVM手術～子宮を温存し、弛緩した膣壁の裏の組織にポリプロピレン製のメッシュを埋め込こんで膣壁を裏側から支えるように、膣壁を形成する手術です。2005年に日本で初めて行われ、生理的で再発率が比較的少ない反面、排尿状態の変化や特有の合併症も散見されます。
- ⑤腹式子宮頸部仙骨固定術～開腹により子宮体部と付属器を摘出し、残した子宮の断端を、メッシュを介して仙骨に固定します。  
そのほか子宮の脱出した頸部のみを摘出するものや、最近では腹腔鏡で仙骨固定を行うなど術式が報告されてきています。

### 3) 市立札幌病院産婦人科のPOP手術の動向

子宮脱を中心としたPOPに対する手術は年間約100件行われています。

平成20年に導入したTVM手術（20年6件）ですが、H21年には全POP手術の90%を超えました。しかし、超高齢や合併症患者さんの増加で従来法を含めた術式の選択幅を広げ、H24年は約50%まで減少し、新たに腹式仙骨固定を含めた術式が散見されるようになりました。



【市立札幌病院産婦人科のPOP手術の動向】

#### 4) これからの取り組み

当センターのPOP患者さんには高齢者や合併症を有する方が多く、泌尿器科を含め各診療科と連携し慎重な周術期管理が必要とされるケースも少なくありません。

手術治療のみならず、それぞれの患者さんに適した治療法の選択と新しい治療法の導入など、安全で質の高い医療を提供できるよう考えています。

対象となる患者さんのご紹介をよろしくお願いいたします。

## 8階東病棟(女性病棟)の紹介

8階東病棟師長

やまや ていこ  
山谷 禎子

8階東病棟は、市立札幌病院唯一の女性病棟として婦人科、泌尿器科、乳腺外科の患者さんの入院療養を支援しています。

病棟の正面カウンターには、季節が変わる折に装飾を行い、女性病棟に入院される患者さんをお出迎えています。この装飾は、入院療養を安心して快適に過ごし、元気に退院していただきたいという看護師の気持ちです。



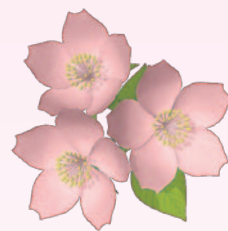
【桜で飾られた正面カウンター】

退院後も外来受診の際にカウンターを楽しみに見に来てくださる患者さんもいます。

「子宮脱センター」開設から3年が経過し、8階東病棟ではこれまでに多くの患者さんの骨盤臓器脱の治療、看護を行っています。女性は出産や加齢に伴い起こる脱症状(異物感、失禁等)があってもデリケートで羞恥心を伴う症状だけに我慢をする方が多くいるようです。

入院された患者さんが「長年、残尿感がありましたが、年のせいだし仕方がないと思い我慢をしていました。でも、手術をしてうそのように楽になりました。」と笑顔で話されていました。患者さんは、元々活動的で外出することが大好きでしたが、尿失禁や排尿時の不快感が強くなり外出することが億劫になるほど日常生活に支障をきたしていました。手術を受け、今では不快症状から解放され楽しい日々を過ごせることに喜びを感じていらしたことをうれしく思います。

入院から退院までは約10日間前後のため、早期から患者さんの生活状況をお聞きして、生活に合った指導を進めています。手術後6日目には、骨盤の筋肉を強化して排尿障害の予防を目的とした『骨盤底筋体操』を行います。初めにパンフレット並びに実際の体操場面をDVDで視聴していただき、看護師と一緒に体操を行います。これは、退院後の自宅で家事仕事の合間や外出先でもでき、毎日続けることで効果がある体操です。



【骨盤底筋運動指導風景】

日頃、排尿不快で悩まれている方は、ぜひ市立札幌病院の産婦人科、泌尿器科外来への受診をお勧めいたします。一人ひとりの患者さんが快適な生活に戻ることができるように医療スタッフが協同・連携を取り、安全で安心できる医療・看護を提供させていただきます。